

年間第18主日の説教

金 大烈 神父 2009年8月2日(日)

《イエス様は朽ちない永遠の命のパンです。》

おはようございます。

人間って生きるために食べますよね。食べるために生きている人もたまに見かけますけれど、大体生きるために食べます。認めますか？(「はい」)食べるためには何をしますか？一生懸命働きます。結局私たちは生きるために食べたり働いたりします。しかし、ある意味では食べるだけ死に近づいていると言っているかもしれません。私たちが食べる物は朽ちる物です。その朽ちる物を食べた私たちの身体もいつか朽ちる。それで今日、イエス様はおっしゃいます。「変わらない、朽ちない永遠の命を与える。その食べ物を求めなさい。私が命のパンである。」(今日の福音 ヨハネ 6・24-35)

皆様、私たちは毎ミサ、できるだけ心を集中して「この御聖体はイエス様の本当の身体である」と信じようとしながら御聖体をいただいています。皆様の今の信仰生活でも「私の信じているキリストは本当に神様の子であり、神様であり、命のパンである。」ことを信じようとする心をお持ちだと思います。しかし、毎日この感覚「これは命のパンだ。これはイエス様の命だ。」という感覚を生々しく持ち続けるのはたやすいことではありません。命のパンであるイエス様が今どのような力で皆様を支えているか、皆様、考えていますか？本当に「あなたは私の永遠の命のパンです。」という深い硬い信仰が皆様の心に置かれているのでしょうか？そういう強い心があれば何の事でもできるはずだと思います。

皆様、今日のミサを通して、イエス様が私にとって腐らない命の食物であることをよく考えてみましょう。命のパンであるイエス様をいただいている私たちも腐らない命のパンとして、私たちに会う全ての人々にも命を与える者にならなければならないことを考えてみましょう。

他の話を紹介させていただきます。これはインターネットを見ていて目に留まった文章です。誰が書いたかわかりません。匿名です。名前なしで自分の考えを書いてインターネットに流すんです。それを見てこれはいい内容だと思ったらそれを他に移して広まっていったのが私の目に入りました。それを日本語に直訳してみました。この文章を書いた人が何の宗教を持っているかわかりません。カトリックの教えと比較してみますとやっぱりちょっと足りないところがあります。そして年齢を重ねた経験の沢山ある人の文章ではないでしょう。たぶん30代の青年が書いたのではないかと思いますけれども、肯ける(うなずける)ところが結構ありますので聞いて下さい。

「後はありません」

『今日、私たちはより高いビルとより広い高速道路を持っていますが、もっと気短になって視野も狭くなっています。お金もより使っていますが、楽しさは減り、家は大きくなっていますが家族は減っています。仕事はおおまかにしても、時間は常に足りなくなっています。知識は増えていますが、判断力は減りました。薬はより飲んでいますが健康はもっと悪くなりました。持っているのも何倍に増えていますが、その価値は減りました。多く口にしますが愛は少なくなり、憎しみは増えました。宇宙にも行ける時代になっていますが、隣人に会う距離はもっと遠くなりました。世界が狭くなっていますが、自分の世界は失っています。収入は増えましたが、やる気は落ちています。自由は増えていますが、意欲は失いました。贅沢な結婚式は沢山行われていますが、もっと高い代金を払わなくてはならない離婚も増えてきました。立派な家が沢山建てられています、沢山の家庭が壊れています。

それで、今日、私は提案を申し上げます。

特別な日を言わないで下さい。毎日が特別な日だからです。真実を探し、知恵を求めて下さい。あ

りのまま御覧になって下さい。人とのより深い関係を探して下さい。こうゆう事は何かに対しての執着も要求しないし、社会的な地位も、プライドもお金も要らないです。家族と友達との時間をもっと増やして下さい。あなたが好きな人々と好きな食べ物を楽しんで下さい。あなたが好きな場所を訪れ、心楽しくなる所へ行って下さい。

人生って楽しさで作られた美しい瞬間の連続です。人生は絶対に生き残る為の争いだけではありません。明日のために残した何かを今日惜しまずに使って下さい。あなたの辞書から“何時か”とか“後で”とか“お金が貯まったら”のような表現をなくして下さい。時間を取って、“やる事”のリストを作ってみて下さい。そして、お金が要らないことから先ず始めて下さい。

“あの人、どうしているのか”と心配しないで下さい。それより、直ぐ連絡を取ってみて下さい。家族と友達に度々、どんなに感謝しているかを、そして、どんなに愛しているかを伝えて下さい。あなたの人生に、そして、誰かの人生に、笑わせることと喜びを与えることを延ばさないで下さい。

毎日、毎時間、毎瞬間が特別です。あなたがあまりにも忙しくて、このメッセージをあなたの愛する誰かに送るただ何分かを取れなかったら、それで“後に”しようと思っていたら、その“後に”が永遠に来ない可能性があるのを自ら自分に言って下さい。そして、あそこにいる誰かが、今あなたの愛を必要としている人かもしれません。』

いい話でしょう。私たちの生きている社会がどの位淋しがっているか、どの位他人になって、ともにすることをさぼっているのか。教育も法律も商売になっている、友達も商売の関係になっている社会です。このような社会で家族も気にしなければならない関係になっている。一昨日テレビの番組で一匹のワンチャンを世話するのに一ヶ月に30万円かかる、トリミングとかするのに毎月5~6万円かかる、というのをやっていました。その位お金をかけてワンチャンを世話するという人が結構いるみたいです。

その話を教会委員長とちょっと話し合ったのですが、なぜ人々が非正常的にペットに心を奪われているのか。もとのペットの役割でなくて、人間より高いところで人間より尊い存在になって、人間は軽んじていながらワンチャンにお金をかけているのはなぜか。その時、委員長は「たぶん家族さえ心から自由に話しができない時代にきている。自分の痛みや悩みさえ、奥さんや御主人に全部見せることができない時代になっているのではないのでしょうか。」と言われましたが、私もそう思います。それで諦めて、ペットなら笑わせたり、悲しませたり自分の自由にできますよね。ですからペットに執着してしまうのでしょうか。私もワンチャンを飼っていますが、私が一番嫌いな者より軽い存在です。それが私の原則です。もし、自分の犬と自分が一番嫌いな人との間で一つを選ばなくてはならない場合、辛くても人を選ぶのが正しいと思います。それが正しい私たちとペットとの関係だと思えます。

ありがとうございました。